

令和3年度 学校評価報告書

島根県立益田高等学校

【合い言葉】「 伸びる 伸ばす 」

【教育目標】主体的に物事に取り組み、様々な他者とのつながりを通して自らを高め、未来を切り拓くことのできる生徒を育てる。

【教育方針】(1) 生徒の進路目標を早期に確立させ、その実現を支援する。(進路保障)

(2) 基礎基本に基づいた確かな学力を育成する。(学力保障)

(3) 豊かな人間性を養い、これからの社会をたくましく生き抜く力を育成する。(資質保障)

【重点目標】(1)進路保障 ① よりよい社会を創るという目標を共有し、自己の将来の在り方・生き方を考える機会を通じて早期に進路目標を設定させ、進路実現に向かう意欲と態度を育てる。
② 進路決定に必要な情報の提供や面談等により、生徒の進路実現に向けた意欲を喚起し、日々努力する習慣を身につけさせ、目標実現に向けて必要な学力を獲得させる。

(2)学力保障 ① 習得・活用・探究を意識した授業改善に取り組み、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の学力を伸ばす。
② 「わかる・力がつく」授業を行い、自主的・主体的に学習に取り組む態度を育成して、やりきる力と個に応じた能力が身につくようにする。
③ スーパーサイエンスハイスクール事業（以下「SSH」）への取組を通して掘り起こした興味・関心・疑問を研究課題に深化させ、科学リテラシーと創造性の素地を育てる。

(3)資質保障 ① 「凡事徹底」「日々改善」に心がけ、基本的生活習慣の確立を図るとともに、教育相談等をより充実させ、生徒が心身ともに健康な生活が送れるようにする。
② 自他の権利を理解し、権利を行使する責任を自覚して互いに共感し共生する心と力を育てる。
③ 学習、部活動、生徒会活動、学校行事等に主体的、積極的に取り組ませることにより「益高生に身をつけさせたい資質・能力」を育成する。

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価	評価	学校関係者評価	改善策
					達成状況		考 察	
学校運営	環境整備 働きやすい職場環境の構築 学びやすい学習環境の構築		<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標及び重点目標を、全教育活動を通して達成する。 ・目標達成に向けた適切な学校運営を行う。 ・校内組織及び校務分掌を連携・機能させる。 ・PTA活動を通して保護者との連携を密にし、その活性化を図る。 ・学習や進路実現を支援する適切な内容、量の蔵書を整え、利用しやすい図書館運営を行う。 ・ホームページや「学校だより」等により適切な広報活動を行う。 ・生活環境・学習環境の美化が保てるよう、積極的に清掃活動を行う。 ・費用対効果考えた教育活動を行う上で、効率的・効果的な予算執行を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の自己評価で3以上(4段階)を目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、合言葉「伸びる 伸ばす」のもと、重点目標達成に向け、授業、学校行事、部活動、SSH事業、進路行事など全教育活動を通して、全教職員が努力した。 ・教務を中心に新教育課程での評価のあり方、授業改善、ICT利用の研修、実践等に積極的に取り組んだ。 ・「益高PTAだより」をPTA広報部会が中心となって紙面を刷新し、保護者・地域への広報を行った。 ・蔵書を適切に管理し、古い本を廃棄し、計画的に必要な書籍を購入するなどして、図書館運営がスムーズに行われた。また、他分掌と連携して必要に応じた資料提供を行った。 ・利用しやすい図書館となるように館内外の掲示・展示等の工夫をした。 ・学校便り「いわみの」を隔月発行し、学校状況を精選して発信した。 ・ホームページについては、今年度刷新し、時代に即した構成のもと情報発信を行った。 ・生徒数減のなか、各掃除場所的確に分担して、取り組んでいる。 今後とも、全教職員できめ細かな指導を継続する。 ・新型コロナ対策を中心として、各事業担当課等と連携し、また校内の調査を踏まえ効果的な備品等の整備を行うように努めた。 	3.2 3.2 3.2 3.3 3.4 3.3 3.4 3.2 3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいホームページはセンスがよい。 ・生徒数が減ってきたが、その分きめ細かな指導もできている。 ・地域の中から選ばれる学校となるように魅力を伝えて欲しい。 ・教員の長時間過重労働は続いているが、正当な評価があれば頑張れる。よくやった自分を認め、互いの頑張りを認め合うことが必須。 ・益田・鹿足で毎年人口が500人ずつ減っていく。高校の生徒集めは厳しい。おもしろいことあると引きつけたいいけない。人数が少ないなりにきめ細かな指導ができる等のプラス面を。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSH事業プログラムで、1年の地域巡検、2年の課題探究、課題研究に効果が出るように演習の順番を変更した。効果はあったがもう少し早めにスタートさせる必要がある。さらにプログラムの内容・計画を改善し運営に当たりたい。 ・働き方改革をさらに進めていく。 ・生徒、保護者、地域さらに学校の様子がより伝わるようにする。 ・生徒がより多くの本との出会いをすすめるために、蔵書の新陳代謝を推進するとともに生徒、教職員による図書紹介を掲載する図書新聞を発行して。啓発活動に取り組む。 ・館内展示、学習スペースのレイアウトを検討する。 ・ホームページ・インスタグラムの更新を増やし、多くの方々に知ってもらう。また、緊急メールを刷新し情報伝達に役立てる。 ・不要な傘を撤去したことと生徒用下駄箱が新しくなったのを機に昇降口周囲の美化を徹底させる。 ・年間所要額の把握に努め、予算の効果的な執行により要望に沿った備品や設備の整備を行い好評であったので、次年度以降も継続したい。
					<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員による学園祭企画運営、生徒会誌「ななお」編集、スポーツ大会の企画・運営にも積極的に取り組み、生徒の達成感を高めることができた。 ・利用しやすい図書館となるよう館内の提示、展示等を工夫し、図書新聞に先生方の読書紹介や紹介本コーナーを作成するなど、図書委員会の活動を活性化した。 ・HR活動や講演会等により生徒の人権意識の向上に努めた。 ・安全安心アンケートを無記名で実施するなどし、いじめ等の早期発見に向けての取組を行った。 ・人権・同和教育HR指導については、各学年会で内容をしっかりと検討し現状に適したものとし、正担任だけでなく副担任も授業を行っている。 	3.1 3.4 3.2 3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケート結果で部活と勉強の両立は苦戦している生徒が増えている一方、学校生活満足度が高くなっているのは、コロナの影響でメリハリがなく切り替えができないからではないか。 ・コロナ禍で行事が縮小され、卒業式は卒業生と保護者のみ、在校生が卒業式を経験しないまま自分たちの番を迎える。部活にしても良き伝統が引き継がれていかないのではないか。 ・コロナ禍も2年目となり、2年生の方が影響を強く受けている。誰も経験したことがない中で、徐々にリモートの形等ができてきた。コロナ禍だからできることをプラスのイメージでとらえてほしい。リモートの授業も後からゆっくり確認できる良さがあるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員を中心に自主的、積極的に活動した生徒会活動を継続して活性化させ、学校行事のあらゆる場面で生徒の主体的な活動につながるよう支援する。 ・読書の啓発活動の一環として、図書委員による図書購入を「図書新聞」に掲載しその充実を図る。また、継続して課題研究、小論文等の情報提供を推進する。 ・次年度も各学年より人権・同和教育担当をつくり、より組織的に生徒一人ひとりの人権意識の向上に取り組む。 ・人権教育講演会、HR活動などを保護者にも公開するよう取り組んでいく。
生活指導	豊かな人間性の育成 豊かな人間性の育成		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会や各種委員会をできるだけ主体的に活動させることで生徒の資質を伸ばす。 ・図書館から情報を十分提供し、読書や資料活用の推進を図る。 ・自他の権利を理解し、お互いに思いやり共生する心の育成に取り組む。 ・広報活動等を通して家庭や地域と連携しながら、人権・同和教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の自己評価で3以上(4段階)を目標とする。 ・人権・同和教育研修会を開催し、共通理解を図る。 ・人権・同和教育LHRを全学年毎学期行い、その意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立の大切さを、日々の健康観察記録、「私のキセキ」の記入等により生徒に意識させることができた。 ・総体や夏の上位大会に向けて、校内の機運を高める取組を行い積極的な活動を促した。 ・SNSの扱いについて、講演会やHRを中心に指導し、警察からも講師を招いて啓発した。 ・スマートフォンの不正使用に対する指導を変え、個別指導による規範意識の醸成を図った。 ・学園祭での3年演劇部門や合唱部・吹奏楽部合同演奏会の実施により、多くの生徒に芸術に触れる機会を提供できた。 	3.1 3.1 3.1 -	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に「服装身だしなみを整える」ような啓発活動を行う。 ・安全安心アンケートも引き続き実施して、生徒の実態把握をする。 ・部活動の在り方に関する総合的なガイドラインに沿って各部で計画をたてる。 ・警察からの指導や、LHRを活用して生徒に安全指導をしていく。 ・成人年齢引き下げによる、主権者教育、消費者教育の効果的実施を検討する。 ・グラントワが使えない中で、芸術鑑賞、文化祭演劇、合唱吹奏楽合同演奏会の円滑な実施に向けて、各担当で連携しながら進めていく。 	
					<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣を確立し、心身の健康を自ら管理する姿勢を育成する。 ・規律ある部活指導を行い学習と両立する。 ・SNSについての啓発や指導を行い、情報モラルを高め、ICTを適切に活用する力を育成する。 ・優れた芸術や文化に触れる機会や情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の定着と学力向上に向けた取り組みを適切に行う。 ・常に授業改善を意識し、指導力向上の施策を行い、教科指導の充実を図る。 ・土曜特別補習を行い、積極的に学習する姿勢と入試に対応できる応用力を育成する。 ・3年生の8限授業を効果的に実施し学力向上に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年とも学年集会・保護者進路説明会の開催や学年通信を発行し、保護者への進路情報の提供を行った。PTA総会では、企業の立場からの人材育成についての講演会を実施して、令和の時代に求められる人材について共有する時間が持てた。 ・複数の地元企業による説明会を実施し、各ブースを回ることで地元企業を知る機会を設け、1年生には「カタリ場」を実施し、多くの職業人と出会うことにより職業観の育成を図った。 ・教科や学部と連携を図り、効果的に小論文指導・面接指導を行った。また担任と教科担当の連絡を密にし、3学年を中心に個別添削指導を実施した。 ・関西研修の代わりに松江の企業を見学する県内研修旅行を計画していたが新型コロナ感染拡大につき実施できなかった。理数科の島根大学での研修はオンラインで実施された。 ・2年理数科、普通科理系クラスとも小学校へのアウトリーチ活動を継続している。 ・2年生普通科は、地域創生の在り方を考える課題探究に3年まで継続して取り組んだ。 	3.3 3.2 2.9 3.2 3.3 3.2 3.3
学習指導・進路指導	確かな学力の推進 基礎・基本の定着 知的応用力の育成 主体的な学習態度の育成		<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の定着と学力向上に向けた取り組みを適切に行う。 ・常に授業改善を意識し、指導力向上の施策を行い、教科指導の充実を図る。 ・土曜特別補習を行い、積極的に学習する姿勢と入試に対応できる応用力を育成する。 ・3年生の8限授業を効果的に実施し学力向上に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の自己評価で3以上(4段階)を目標とする。 ・生徒による授業評価を1・2学期末に実施し、指導法改善及び指導力向上に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「危機管理の手引き」について、新型コロナ感染症の対応について追記する予定であったが、まだ流行の最中に対処も変わるため、今後追記していく予定である。 ・防災計画どおり実施できた。また、「昼休みに地震発生」や「自分の地域のハザードマップ確認」することで、防災意識を高めることができた。 ・保健部、PTA、双方より安全点検を行い、対応可能な所についてはスピーディーに対応し、生活環境等の改善を行った。 ・今年度三棟外壁のリフレッシュ工事、石見オロチCOREハイスクール事業に伴うICT教室工事、通級拠点校に伴うインクルーシブルーム等の工事が計画的に実施された。 	3.0 3.2 3.2 3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が続き、先行きの見えない不安、立てた計画が実施できるかという不安などのストレスは大きい。行動制限もあり、なかなかストレス発散も難しいが、教員は学期や年度単位で仕事をすすめるので、区切りで一旦荷物を下ろし、緊張をゆるめ、ストレスを軽減してほしい。 ・子どもが会おう大人に魅力がないと、先生方から子どもにかけ言葉は大きい。忙しいとは思うが輝いて魅力ある大人であってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災・地震・津波・水害の各訓練をさらに工夫して、生徒の危機管理意識を高揚させる。 ・職員研修や事例を通し、本校の学校いじめ防止基本方針を周知する。 ・本校が地域の避難場所となっているので、昨年作成の「緊急避難マニュアル」に従って、災害時の受け入れを常に準備しておく。 ・安全点検等を通じて要望のあった箇所については優先的に修繕が行われた。また、不用備品等の処分についても少しずつではあるが行うことができた。しかしながら、校舍老朽化に伴う抜本的な施設の整備はなされていないので、今後のリフレッシュ工事の過程の中で要望箇所を精査していきたい。
					<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した進路指導計画の下、適切な情報提供により、生徒・保護者の進路意識の高揚を図る。 ・進路希望調査、進路説明会などを行い、進路意識の高揚に努める。 ・個別添削、小論文指導や面接指導を組織的にを行い、進路実現を支援する。 ・関西研修、東京研修、課題研究、2年文系課題探究と更なるSSH事業の充実を図る。 ・1年生論理的思考力基礎演習SPを通して、論理的な思考力・批判的思考力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年とも学年集会・保護者進路説明会の開催や学年通信を発行し、保護者への進路情報の提供を行った。PTA総会では、企業の立場からの人材育成についての講演会を実施して、令和の時代に求められる人材について共有する時間が持てた。 ・複数の地元企業による説明会を実施し、各ブースを回ることで地元企業を知る機会を設け、1年生には「カタリ場」を実施し、多くの職業人と出会うことにより職業観の育成を図った。 ・教科や学部と連携を図り、効果的に小論文指導・面接指導を行った。また担任と教科担当の連絡を密にし、3学年を中心に個別添削指導を実施した。 ・関西研修の代わりに松江の企業を見学する県内研修旅行を計画していたが新型コロナ感染拡大につき実施できなかった。理数科の島根大学での研修はオンラインで実施された。 ・2年理数科、普通科理系クラスとも小学校へのアウトリーチ活動を継続している。 ・2年生普通科は、地域創生の在り方を考える課題探究に3年まで継続して取り組んだ。 	3.0 3.2 3.3 -	<ul style="list-style-type: none"> ・「危機管理の手引き」について、新型コロナ感染症の対応について追記する予定であったが、まだ流行の最中に対処も変わるため、今後追記していく予定である。 ・防災計画どおり実施できた。また、「昼休みに地震発生」や「自分の地域のハザードマップ確認」することで、防災意識を高めることができた。 ・保健部、PTA、双方より安全点検を行い、対応可能な所についてはスピーディーに対応し、生活環境等の改善を行った。 ・今年度三棟外壁のリフレッシュ工事、石見オロチCOREハイスクール事業に伴うICT教室工事、通級拠点校に伴うインクルーシブルーム等の工事が計画的に実施された。